

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401707
法人名	社会福祉法人 平和会
事業所名	グループホーム ありま荘
所在地	長崎県南島原市北有馬町甲3181番地8 (電話) 0957-84-2174
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 10月 10日

【情報提供票より】 (平成19年 8月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	21人 常勤 21人, 非常勤 0人, 常勤換算16.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400~17,050 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要 (8月 23日現在)

利用者人数	27 名	男性 2名	女性 5名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	15 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83歳	最低 68歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな場所に位置し、広々とした法人敷地内にある。新設された足湯処や鯉の池など利用者が日々の生活を楽しめるよう工夫してある。運営理念である「尊敬・愛情・優しさ・和」を基本に管理者、職員は明るく優しい支援を実践しており、利用者の表情からも安心して毎日を過ごしていることがわかる。3ユニットは個性を持ちつつも連携しており、例えば入浴など互いに助け合っている。支援は過剰にならないよう、利用者のできることを把握し居宅に近い暮らしを支援することを念頭に置き、入居前に家族に説明し、実践している。また、地元の食材を活かし季節を感じられる食事を提供しており、利用者との会話にもつながっている。3ユニット間の情報交換は職員が頻繁に行き来することでできており、ユニット間のコミュニケーションを図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果についての報告は行われており、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。しかし、これまでの評価結果の課題について改善計画シート等を作成し、具体的な改善までには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットの職員でそれぞれに話し合い、各管理者がその意見を基に自己評価票を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市職員、地区民生委員、利用者家族、施設長、ホーム長、介護主任のメンバーとなり、2ヶ月に1度実施予定であるが平成18年中は1回行われるに留まっている。平成19年中の開催も実施する事となっている。協議内容はあいさつとグループホーム紹介、見学、説明であったため意見を取り入れ活かした取り組みまでには至っていないのが現状である。今後は運営推進会議の意見を活用した取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは、訪問時に意見や要望を引き出す機会を設けている。また、苦情受付の窓口は文書にて示されており、玄関口に「ご意見箱」を設置している。しかし、重要事項説明書の苦情受付窓口の第三者委員の氏名、連絡先が未記入であった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の文化祭に貼り絵や折り紙で参加し、事業所が行う夏祭り、敬老会に招いている。また、近隣の保育園や小中学校からの訪問もあり交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念作成には、管理者、職員全員が作成にかかわり、事業所全体の話し合いのもと、「尊敬・(愛情)・和・やさしさ」を基本理念に掲げており、その人らしく暮らす事が出来るよう支援している。しかし、地域との関係性がある理念とまでは言えない。	○	今後、理念を見直す時には事業所全体から地域全体へその対象を広げて地域との関係性も話し合い作成することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の文書掲示やパンフレットへの掲載を行い内外への共有化に努めている。職員は午前中に各ユニットで利用者9人が一緒に過ごす時間を設け、理念のひとつである「和」の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境上、近くに民家は少ないが、地域の文化祭に貼り絵や折り紙で参加し、事業所が行う夏祭り、敬老会に招くなど努めている。また、近隣の保育園や小中学校からの訪問もあり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果についての報告は、ホーム内で行われており管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。自己評価は職員で話し合い、管理者がそれを基に作成している。しかし、これまでの評価結果の課題について検討しているが、具体的な改善までには至っていない。	○	評価結果報告については改善チェックシートを活用し改善計画案を検討し文書化し、具体的な改善案をもとに課題解決が出来るように努めて戴きたい。

グループホームありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地区民生委員、利用者家族、施設長、ホーム長、介護主任のメンバーで運営推進会議が平成18年中は1回行われている。2ヶ月に1度実施予定であるが、平成19年中の開催も1度開催されずに留まっている。	○	運営推進会議は現状報告や取り組み課題などを話し合うことで、事業所のサービスの質の向上にもつながる貴重な場である。2ヶ月に1度開催し、身近な課題や外部評価の内容についての話し合いを盛り込むなどし、充実した内容になるようにする事が望まれる。また、会議に関する取り決めや議事録の作成も検討して戴きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行き来については具体的な事例がなく、市町村への働きかけは、積極的に行われていない。	○	今後は運営推進会議だけでなく、行事の案内、支援についての相談など利用者支援の質の向上に向けて市町村との連携を積極的に働きかけを行ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、電話や金銭出納帳等郵送の際に行っている。また、預かり金の残額が少なくなると連絡している。家族の方が来訪された際には、その都度面接を行っているが、個々にあわせた定期的な報告、特に文書での報告は行っていない。	○	行事の様子や利用者の生活ぶりなどを家族がわかるように定期的な報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、訪問時に意見や要望を引き出す機会を設けている。また、苦情受付の窓口は文書にて示されており、玄関口に「ご意見箱」を設置している。しかし、重要事項説明書の苦情受付窓口の第三者委員が不明瞭であり、家族の意見や苦情受付について整備が必要である。	○	重要事項説明書の苦情受付窓口の第三者委員を明確にし、第三者委員が決まり次第委員や機関が記載された改訂版を家族へ届け、意見反映方法の周知を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の交流は頻繁に行われており、毎朝の朝礼は1ヶ月単位で場所を移動するなどし、他ユニットの職員でも利用者と同様に馴染みになるよう工夫している。ユニット間での異動は、引き継ぐ際での情報交換が行われており、利用者の負担が軽減されるよう努めている。		

グループホームありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨今の事例を挙げれば11月のリーダー研修は2名受講しており、夕方から行われる外部研修への参加人数は自由という事もあり増加している。研修の報告会は全体会議の際に行っており、復命書は回覧している。グループホーム独自の研修計画はないが、法人全体の内部研修も年に1,2回あり受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市グループホーム協議会の会員にはなっているが会議等が定期的に行われていない。交流の場への参加を計画しているが、実現までには至っていない。	○	南島原市グループホーム協議会の会員になった事をきっかけに同業者との交流を深め、共にサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	理事長、法人事務長が中心となり、運営規定や管理規定を策定している。これにそって利用する前に家族等への説明を行っており、希望があれば体験入居も行っている。ホーム利用前の利用者の情報は、家族への聴き取りや病院作成資料から収集した個別記録がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	3ユニット全体で行われる運動会やその他レクリエーション、足湯、散歩等、職員は、利用者と喜怒哀楽を共にしている。また、本人の経歴や得意分野を洗濯物たたみや水やり、調理の補助など生活に活かせるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度声かけを行い思いや意向の聞き出しを行っている。ケアプランや日誌といった日々の記録、会議や申し送りの際にも、利用者の思いや意向を把握し、職員全員が利用者の状態や意向を共有できるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意見、希望を聴取し、日々の記録と職員の気づきなどを月一回会議の中で話し合い作成している。介護計画に基づき、職員間で情報や意見交換を行っている。また、訪問の際には家族の方とは面接を行いそのときに得た意見を出るだけ反映するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	以前の見直し期間は1年であったが、県からの指導も受けて3～6ヶ月で見直しを行うように変更している。また、随時、職員会議やケース会議、申し送りで情報交換を行い、会議日誌や、ケース記録を見る事でも利用者の変化が随時わかるようになっている。また変化があれば計画変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を活かしながら本人の通院時の送迎や重度化によるスムーズな入院の支援など、利用者に対する負担を出来るだけ軽減できるように努めている。		

グループホームありま荘


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、ほとんどが地元であるため希望のかかりつけ医の受診、往診を支援している。また、毎週1回、同法人嘱託医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受け入れる体制は整っているが、利用者、家族がグループホームではなく病院での終末期療養を希望しているため、事例はない。利用者に重大な変化が生じた際の緊急連絡ルートは明確になっている。また、家族には「看取りの医師の確認書」に署名をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には、守秘義務の指導および誓約書への記入を行っている。また、「個人情報保護法規程集」が備えてある。職員の言葉掛けには、丁寧で優しい感じであり、自尊心を傷つけないように気をつけ対応している所が伺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の記録から体調を把握したうえで、利用者からの要望には出来るだけ支援出来るように努めている。自宅への外泊や行事参加、買い物なども本人の意思を優先し支援している。また、職員は常に利用者の気持ちを念頭に置き対応するよう心がけている。		

グループホームありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、利用者からの希望を聞き取り、グループ内の栄養士の指導を献立に反映させている。また、農業の盛んな地域性を活かし、地域の特産物を材料に取り入れる事もある。一人ひとりの好みを聞き、同じ食材であっても調理法を変えて楽しい食事を支援している。職員も利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、基本的に週3回と決まっているが希望があれば、他のユニットと人的な協力を行い、いつでも入浴できるよう対応する体制がある。入浴拒否の方については、無理をさせずに利用者の状態や心情を汲み取り、誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意分野を家族等からの情報収集により把握し、個別に記録し職員間で情報を共有してその場面作りに努めている。具体的には、洗濯物たたみや洗濯物干し、犬や鯉のエサやり、展示用の作品作りがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設内の庭や足湯処、施設外で要望があれば買い物やドライブ、日帰り温泉、理美容室などに職員と一緒に外出している。車椅子の利用者も他の利用者と同じように希望に応じて外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、利用者の自由な生活を支援している。ユニットによっては、チャイムが鳴るよう設定しており、外に出て行く利用者を職員が察知できるようにしている。		

グループホームありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署など公的機関の協力を得て、利用者も参加する消防避難訓練を実施している。また、火災受信機、報知器が備えられ、来年度にはスプリンクラーの設置を計画している。マニュアル、防火計画の作成、避難経路の確保も出来ている。法人敷地内に位置する事業所でもあり地域の協力までは至っていない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は摂取管理表にて、水分摂取量は水分補給表を記録している。栄養バランスについてはグループ内の栄養士の指導を受け、献立表の作成を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に音、空調、光の度合いは適当である。日当たりや風通しが良く居心地が良い。リビングは、一段高い所に畳が敷かれた部分とダイニングテーブルの設置された部分とに分かれており、利用者は、自分のペースに合わせてゆったりと過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者本人の馴染みの物を持ち込むのは自由である。具体的には、写真や時計、カレンダー、タンス、仏壇、ベッドなどがあり、利用者によって違う雰囲気のある居室になっている。		

※  は、重点項目。